

せいかつ百科

3月、4月は転入・転出で不要となった物の片付けが多くなります。本市のごみ出しのルールをもう一度確認しましょう。

●ごみステーション排出時の注意事項●

- ①燃えるごみ・燃えないごみはそれぞれの指定袋に入れて、袋の口をしっかり結ぶこと。袋が閉じられないほど大きなものや、袋からはみ出しているものは収集しません
- ②缶やビン、プラスチック製の容器や包装などは資源物としてリサイクル
- ③大量排出はごみの計画収集の妨げになるため、前もって小分けにして排出すること

●ごみステーションに排出できないもの●

【胆江地区衛生センターに直接持ち込めるもの】

- ①粗大ごみ
袋に入らない大きなものや家具など
- ②一時大量ごみ
引っ越しなどで一度に大量のごみを排出するとき

【胆江地区衛生センターで処分できないもの】

- ①タイヤ、塗料、シンナー、機械廃油、建築資材
- ②石こうボード類、コンクリート製品、石材、土砂
- ③農業資材、農薬、肥料
- ④針金、チェーン、スプリング

引っ越しの季節 ごみは正しく処理しましょう

- ⑤バッテリー、モーター、ポンプ
 - ⑥直径 15cm 以上の木材や肉厚な鉄パイプ、鉄筋類
- ①から⑥は販売店や専門業者などに処分を依頼してください。この他にも処分できないものがありますので、事前確認の上、持ち込みをお願いします。

【リサイクル】

- ①テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機、エアコン
■問い合わせ (一財)家電製品協会家電リサイクル券センター (☎ 0120-31-9640)
- ②パソコン本体、ディスプレイ
■問い合わせ (一社)パソコン3R推進協会 (☎ 03-5282-7685)
- ③消火器
■問い合わせ (株)消火器リサイクル推進センター (☎ 03-5829-6773)

詳しくは市のホームページでご確認ください。
トップページ⇒くらしの情報⇒ごみ・衛生
⇒ごみ・リサイクル

■問い合わせ＝本庁生活環境課
生活衛生係(内線 1216)、各総合支所市民環境課



おうしゅう 羅針盤

まだまだ寒い日が続いていますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

市内の小中学生が議員となる「おうしゅう子ども議会」が開催されました。人口減少対策や農業振興、ILC など鋭い質問をいただきました。物おせずはきはきとした姿勢にすがすがしさを感じました。子ども議員の皆さまの大きな成長を期待しています。

市民新年交賀会が行われ、新たな年の幕開けを祝いました。席上、市勢功労者と市長特別表彰者に表彰状を、地域振興功労者に感謝状を贈り、労をねぎらいました。受賞者の皆さまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

昨年は本市出身の大谷翔平選手が大リーグ新人王を獲得するなど、スポーツ分野では明るい話題が多くありました。

今年は、さまざまな行政課題に道筋を付ける大切な年です。市民ひとりひとり、地域ひとつひとつの力を結集し、ひかり輝く奥州市を皆さまと共につくり上げてまいります。

消防出初式が市文化会館を主会場に開催されました。消防団長を先頭に統率のとれた勇壮な分列行進のほか、式典では、昨年12月に結成されたカラーガード隊「Oshu Shain・チェリー」が、音楽に合わせ、はつらつと演技を披露しました。災害への備えをしっかりと行い、市民が安心安全に暮らせるまちづくりへ力を尽くしてまいります。

日本一泣ける本市の成人式に出席しました。恩師からのビデオメッセージが披露された後、恒例の「家族からの手紙、20歳からの手紙」では、4人の父母がステージ上でわが子にメッセージを贈り、思い出の写真がスクリーンに映し出されました。新成人には、ご家族への感謝を忘れることなく、夢の実現に向けて挑戦し続けてほしいと願います。

奥州市長 小沢昌記

We support the

希望の ひかり

第63回

ILC (国際リニアコライダー) 計画の各種
最新情報をお届けします

ILC 建設最終合意は 3～5年後

1月10日に一関市内で開かれた ILC の現状説明会において、東京大学素粒子物理国際研究センターの山下了特任教授が今後の想定スケジュールを示しました。

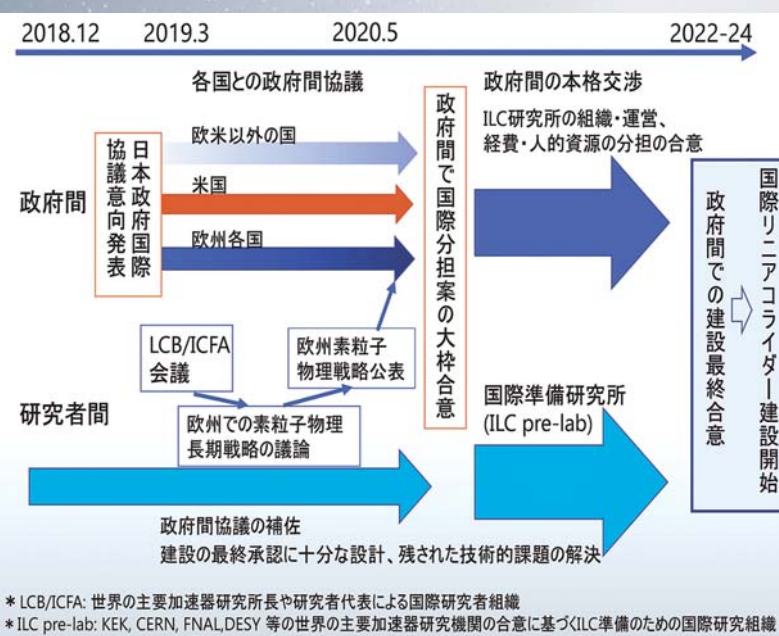
国際研究者組織は日本政府に対し、3月7日までに誘致の意思表明を求めています。日本政府が国際協議を始める意向を表明した場合、2020年に建設費の国際分担の大枠合意をし、各国政府間で研究所の運営方法や経費、人的資源の分担に関する本格交渉を経て、22～24年に最終合意に達するとの見通しです。

東北一丸で政府与党要望
東北 ILC 推進協議会 (高橋宏明代表) は12月21日、内閣府、文部科学省、自民党を訪問し、要望活動を行いました。高橋代表のほか、達増拓也、岩手県知事、村井嘉浩、宮城県知事をはじめとした各県代表、小沢昌記、奥州市長、勝部修一、関市長など候補地自治体の代表らが「社会的な意義も含めた政府判断と、わが国主導による速やかな国際協議の開始」を要望しました。

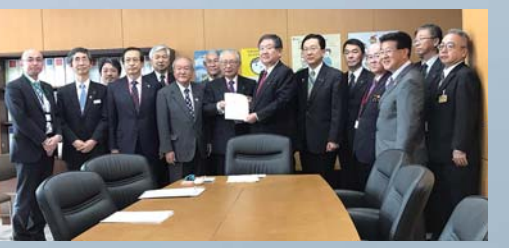
この要望活動の中で小沢市

1歩踏み出すと思っている。地元として一致団結し、できることは何でも取り組んでいくことが重要だ」と呼び掛けました。

長は、「ILC は、子どもたちの非常に強いモチベーションをつくり上げる原動力になると信じている。将来の日本を背負う子どもたちのためにも、ILC をぜひ、前向きに検討してほしい」と訴えました。これに対して柴山昌彦文部科学大臣は、同日午後に行われた記者会見で、「社会的な意義なども踏まえた総合的な検討が必要になる」と答えました。



日本政府が3月7日までに、前向きな意思表示をした場合の想定スケジュール



左藤草内閣府副大臣(中央右)に要望書を手渡す高橋代表と訪問団

市議連 ILC 看板設置(江刺第一中)～未来を拓く ILC～



校門脇に設置された看板

市議会国際リニアコライダー誘致推進議員連盟(渡辺忠会長)は、市内全域での ILC 誘致への機運醸成と ILC のさらなる普及啓発を図るため、市内中学校作成イラストによる PPR 看板の設置を進めています。本年度2カ所目の完成となった江刺第一中学校(千葉和仁校長)の看板には、黄金に輝く稲穂の上に、ILC トンネルや鹿踊などがあらわれています。看板の原画を描いた同校美術部の細田来望さん(3年)と高橋まみさん(3年)は、「ILC に、いろんな人が集まり、にぎやかなまちになってほしい」と夢を膨らませました。また、渡辺会長は「市、県も全面的に誘致を進めている。生徒たちの気持ちも関係機関に伝え、ILC を実現させたい」と力を込めました。